

平成 23 年度 生物多様性の保全と活用による国立公園活性化事業(グリーンエキスパート)

「知床国立公園生態系保全対策事業」

ホームページ掲載用開催報告

<しれとこ科学教室 第3回 開催概要>

タイトル：海と森のつながりを取り戻せ！～魚から見たよい川とは？～

講師：北海道大学大学院農学研究院 教授 中村 太士 氏

日時：平成 23 年 10 月 15 日土曜日 13：00～16：00

場所：斜里町岩尾別 イワウベツ川水系白イ川流域

<講座内容の概要>

しれとこ科学教室の第3回目は河川工作物アドバイザー会議中村太士座長とイワウベツ川河口から魚が遡上できるよう改良された白イ川の治山ダムまでを散策し、河川工作物の改良に至るまでの経緯と改良のポイント、改良後の効果について解説していただきました。

最初に知床岩尾別ユースホテルにおいて、河畔林と河川の関係性やサケ科魚類の遡上による陸域と海域の物質循環の流れ、川に設置された治山ダムや堰などの工作物が河川環境に与える影響、知床世界遺産地域内の改良対象となる河川工作物の選定・仕分けから改良工事実施に至るまでの経緯、改良後の効果と課題点、今後の取り組みなどについてスライドを使ってレクチャーをしていただきました。

基礎知識をレクチャーで学んだ後は、いざ現場へ。まず最初に、参加者13名とともにイワウベツ川河口にあるサケマス捕獲場を見学しました。ここには親魚を捕獲して人工ふ化事業用の採卵をするために魚止め堰が設置されています。以前はこの魚止め堰のため捕獲時期以外も自然遡上できない状態でしたが、現在では捕獲時以外は遡上できるよう改良されており、この改良を行った北見管内さけます増殖事業協会の増川さんにその仕組みについて解説していただきました。

その後はイワウベツ川から白イ川の工作物改良現場までを散策、斜里町の1基と北海道森林管理局の3基、計4基の改良現場を見学しました。一口に河川工作物と言っても、形状もさまざま、素材もコンクリートや鉄などがあり、改良方法もそれぞれ違います。中村先生から、改良工事のポイントや改良後の効果、今後の課題点などについて、お話を聞いた後、疑問点を先生に質問したり、みんなで意見をかわしたりしました。また、最上流の改良工作物のさらに上流側でシロザケを発見、工作物の改良によって、分断されていた川がつながり、海と森のつながりが取り戻されつつあることを実感しました。



ユースホステルでのレクチャーの様子



岩尾別サケマス捕獲場でサケマス増殖事業協会の増川さんからお話を聞く。



工作物の改良現場で中村先生の解説を聞く。